

「マタイ10章 12使徒の派遣」

イントロ:

1. 文脈を確認してみよう。
 - (1) イエスの公生涯が始まっている。
 - (2) イエスに対する3つの態度
 - ①拒否:ユダヤ人の指導者たち
 - ②受け入れた:イスラエルの残れる者(レムナント、真の信仰者)
 - ③迷っている:一般民衆
 - (3) 「羊飼いのいない羊」とは、迷っている人のこと。
 - (4) 「収穫は多い」
 - (5) 働き手の必要性。祈ることは、自らも献身すること。
 - (6) 12使徒の選抜と派遣。
2. これは、現代の日本の霊的状况でもある。
 - (1) 第一のものが第一とされていないキリスト教の状況。
 - (2) 聖書の個人的解釈。
 - (3) 新しい教え、流行。
3. ハーベストフォーラム東京の目的は、迷える羊に方向性を示すこと。
4. 12弟子の選抜
 - (1) 遣わされた者
 - (2) イエスの権威の付与
 - (3) 派遣に際しての指示
5. ここにある緊張感を見逃してはならない(ことの始まり)
6. メッセージのゴールは、「方向性の確認」である。
 - (1) 時限法(3つの理由)
 - (2) 警告(3つ)
 - (3) 弟子道(3つ)
 - (4) 励まし(3つ)

マタイ10章は、クリスチャン生活の方向性を示している。

I. 時限法

1. 地理的限定
 - (1) 異邦人の町、サマリア人の町に行くな。
 - (2) イスラエルの家の滅びた羊のところだけに駆け。
 - (3) 十字架と復活以降は、これが拡大する。マタイ28章の大宣教命令。

2. メッセージと奇蹟
 - (1) 「天の御国が近づいた」
 - (2) そのメッセージの正当性は、奇蹟によって証明される。
3. 生活のための必需品
 - (1) 時間がない。
 - (2) 必要は満たされる。
4. 以上の命令は、時限法である。
 - (1) 現代の宣教師は、生活の準備をしている。
(例話)他人の話をそばに立って聞いているようなもの。テレビ業界についての学び。
 - (2) 時限法の中から、普遍的な教えをくみ上げることが大切。
 - (3) 2人一組で派遣。神が必要を満たしてくださるなど。
 - (4) これ以降の内容も、ほとんどが普遍的な真理である。

II. 警告(3つ)

1. 心の持ち方
 - (1) 向かう先は、楽園ではなく戦場である。
 - (2) 蛇のようにさとく。
 - (3) 鳩のように素直。
 - (4) これは、普遍的な原則。
2. 迫害への備え
 - (1) すべての人が信じるわけではない(期待せよ、そして、期待するな)。
 - (2) 議会や会堂で鞭打たれる。
 - (3) 総督たち、王たちの前に引き出される。これは、異邦人伝道が始まってから。
 - (4) 語る言葉は、その時に与えられる。実践的訓練を受ける。
 - (5) これも、普遍的な原則。
3. 神だけを恐れよ
 - (1) 人々はイエスを、ベルゼブルと呼ぶ。
 - (2) 弟子たちはさらに悪い名で呼ばれる。小から大への論法。
 - (3) 人を恐れるな。神だけが、魂も体もゲヘナで滅ぼすことができる。
 - (4) 雀でさえも神の守りの中にある。ましてや。ラビ的論法。小から大へ。
 - ①2羽で1アサリオン
 - ②ルカ 12:6 5羽で2アサリオン
 - (5) これも、普遍的な原則。試練に会ったなら、どういう教訓があるかを問え。

Ⅲ. 弟子としての道(3つ)

1. 愛する者との敵対

- (1) 剣をもたらすために来た。信じる者と、そうでない者とを二分する。
- (2) イザヤ8:14の預言の成就。
- (3) イエスの時代以来、ユダヤ人たちはイエスによって二分されてきた。
- (4) 今も、イエスを信じたユダヤ人は迫害に会う。
(例話)フルクテンバウム師の例。
- (5) これも、普遍的な原則。

2. 十字架の道

- (1) 十字架を負うとは、イエスとともにこの世から拒否されること。
- (2) 「わたしにふさわしい者ではない」とは、弟子となれないということ。
- (3) 救いは、信仰により、恵みによる。弟子となることは、次の段階。
- (4) これも、普遍的な原則。

3. 死ぬことは生きること

- (1) イエスの十字架と一体となると、イエスの復活とも一体となる。
- (2) パウロの体験。ガラテヤ2:20
- (3) メシア的王国での報酬。
- (4) これも、普遍的な原則。

Ⅳ. 励まし

1. 救われる者は多い。

- (1) 神は救われる者を用意しておられる。
- (2) 弟子の使命は、忠実であること。

2. イエスの弟子が伝えるメッセージを信じる者は、イエスを受け入れている。

3. イエスの弟子に対して愛の行為を行った人は、報いを受ける。

- (1) どんな小さな者に対しても。
- (2) 救いのことではなく、メシア的王国での報いのこと。

結論

1. 11:1 指示を与え、伝道を開始している。
2. 時限法と、普遍的な真理との区別。
3. 救われただけの段階にとどまるのではなく、弟子となることを志す。
4. 主からの報いは大きい。